

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒231 横浜市中区桜木町1丁目1番地
-8482 横浜市健康福祉総合センター9階
TEL 045(681)1211・FAX 045(680)1550
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/

編集発行人・森 和雄

2017 / 6

「みんなで「くらむぼんの地図」を作りました」 愉快なカフェスイーツ店マップ

昨年十二月、旭区で活動している作業所などの紹介マップが完成した。このマップ、完成までにあしかけ三年をかけ、メンバーとスタッフが力を合わせて作った手づくりだ。掲載されているのはお菓子づくりや喫茶をして

いる十三か所の作業所。スタンプリーもでき、全店のスタンプリーを集めると素敵なプレゼントがもらえる。

＊私達のお店をもっと知って欲しい！作成は旭区地域自立支援協議会の日中連絡会。障害のある人を支援する事業所間の連携を深めるために活動を始めたが、各事業所の情報を交換する中で、自然発生的に製菓・喫茶グループが発足。職員だけでなく、メンバーだけの交流も始まり、相互にお店を見学

すること、自分たちのお店についてのアイデアや意見も増えたそうだ。そうした中で「もっと私達のお店を地域の人に知ってほしい！」という声があがり、マップ作りがスタートした。

＊公式キャラクターは「くらむぼんちゃん」に決定！各事業所には、絵が得意なメンバーも多いが、なかなか発表の場がない。そこで、スタッフはメンバーへマップ

の公式キャラクター募集を呼びかけた。個性的な四作品の中から選ばれたのが青木香葉子さん(フェニックス旭)の「くらむぼんちゃん」。宮沢賢治の「やまなし」の一文「くらむぼんはかぶかぶ笑ったよ」からインスピレーションを得て、命名したそうだ。青木さんは「ホッとできるアットホームな場所をイメージして描いた」と言う。もともと絵が得意な青木さん。見る人を思わず笑顔にさせる魅力あるマップになった。

メンバーたちの活躍の場を育て素敵な出会いを生む夢の地図です



メンバーたちの活躍の場を育て素敵な出会いを生む夢の地図です

掲載されているお店

- * 第2 あさひの家
- * Cafe aliare
- * 喫茶 カブカブ
- * 喫茶 カブカブ
- * 喫茶 カブカブ
- * ほわほわ
- * まま
- * まま
- * まま
- * まま
- * まま
- * まま
- * まま
- * まま
- * まま

(横浜市障害者地域活動ホーム連絡会
早坂由美子)

障害があっても住み慣れた街で、その人らしく暮らす」とは、どういう事でしょうか。一人暮らしやグループホームでの生活の中で、何人の方と挨拶し、声をかけてもらえるでしょうか。その地域の方との出会いを大切に、関係を構築していくことが地域の中で暮らす鍵となるのではないのでしょうか。地域の方とのつながりづくりでは、平成二十二年から始まった後見の支援制度の「あんしんキーパー」の存在があり、その発掘を初めとしてまだ多くの課題がありますが、見守りの体制があると安心できます。障害者差別解消法が施行され一年になりましたが、障害者・支援者から苦情が寄せられているそうです。まだまだ障害者にとって地域の中で暮らすことには多くの壁があるようです。障害者が、法で守られるのではなく、地域の中で守りたいものです。

望遠鏡

＊スタンプリーが
始まった

このマップ、昨年十二月から旭区役所や旭区社会福祉協議会、掲載店で配布中だ。

スタンプリー制覇第一号の方は、お子さんが特別支援学校に通っているお母様。その後、地域の方や作業所のメンバーが続々と制覇し、その数はすでに六名にのぼる(五月現在)。

趣旨に賛同した市民からの寄附や、旭区役所の協力により、マップの増刷やのぼりの作成、参加者への記念品などをそろえ、ますます盛りあがりを見せそうです。

平成二十九年度 障害者支援センター事業と予算

平成二十九年度横濱市社協障害者支援センターの予算総額は、約三十四億二千万円余で、団体助成費の減の一方、後見的支援事業の拡充による委託料の増により、ほぼ前年度同額である。主な事業概要は次のとおり。

今年度は、①地域における障害者理解の促進②障害者後見的支援制度の推進③横浜あゆみ荘のサービス・運営の更なる向上の三点を重点取組とし、関係団体・区社協などの連携を行いながら積極的に取り組む。

障害者理解の促進
障害児者が地域で安心して暮らしていくために、当事者や家族が主体となつて、区社協などとの連携により地域生活に関わる関係機関や市民への啓発などを行う「セイフティ

ネットプロジェクト横濱」支援を進める。加えて、区社協と協働して、地区社協などの地域団体による障害理解のための講座開催に、障害者・家族を講師として紹介するとともに講師謝金の助成など開催支援をあらたに実施する。

後見的支援制度の推進
平成二十九年三月に、残る二区において事業が開始され、市内全区で推進体制が整備された。

推進法人としての本会は、本制度の推進・総合調整を図るとともに、全市的な広報・周知活動を進めるほか、登録拡大に向けた制度周知、あんしんキーパーの登録拡大など運営法人とともに「身近な見守り」機能の充実と権利擁護の推進に継続的に取り組む。

横浜あゆみ荘のサービス・運営の向上
様々な障害児者とその家族に安心して利用いただけるよう業務の点検を行い、職員の研鑽などサービスの向上に努める。

また、開所後初めての大规模修繕を予定しているが、工事日程など速やかに周知を行うとともに、工事期間中の営業については、安全に充分に配慮し、利用者への影響を最小限にするよう努める。

受注センターわーくる
市内の様々な企業・団体などに対し、障害者の日頃の活動への理解を図りながら、更なる受注開拓に努めるとともに、登録事業所の受注支援を行うなど更なる発展に向け取り組む。

地域訓練会助成事業
障害児の保育やグループ活動などの場である地域訓練会の運営を支援し、活動費を助成す

事業名	予算額(千円)
地域訓練会運営費助成事業	86,477
地域活動ホーム事業	543,582
地域活動支援センター作業所型助成事業	2,135,714
グループホーム助成事業	99,346
販路拡大事業	6,350
家庭援護事業	2,547
研修事業	1,190
福祉団体活動支援事業	3,000
地域活動支援事業	17,899
療育検診活動事業	614
啓発活動事業	2,807
調査研究事業	479
人権擁護事業	2,950
助成団体監査事業	4,000
作業所等賠償責任保険事業	2,730
セイフティネットプロジェクト横浜支援事業	1,850
障害者後見的支援事業	200,859
よこはま障害者共同受注総合センター事業	18,400
横浜あゆみ荘事業	219,151
その他	74,301
合計	3,424,246

併せて、関係機関や障害児家族に対し訓練会の周知に取り組む。

助成予定…六十団体

地域活動支援センター
作業所型助成事業
地域活動支援センター作業所型の運営を支援し、運営費を助成する。

助成予定…百三団体。

地域活動ホーム助成事業
障害児者の地域活動の拠点である機能強化型活動ホーム二十三か所の運営を支援し、その運営費等を助成する。

グループホーム助成事業
障害者が地域で共同して自立した生活を送る場であるグループホームの運営を支援し、運営費等を助成する。

助成予定…八団体

人権擁護事業
障害児者の人権が生活の様々な場面で確立していくよう、モニター活動などの充実を図る。また、グループホームのモニター活動を他機関と連携し実施する。併せて、各事業者が自己点検を行えるよう簡易版モニターリストを作成する。

地域活動支援事業
地域活動支援センター作業所型・障害者グループホーム・後見的支援室、訓練会などの活動に関わる当事者と家族、関係機関職員などに対し、障害者福祉の総合的な研修を計画的に実施する。

第二十回 重症心身障害児者の進路と生活支援を考える懇談会 開催

去る三月十八日、医療、教育、福祉、行政関係者が一堂に会し標記懇談会（座長・日浦美智江氏・参加者二十三名）が開催され、熱心な議論が展開された。

■横浜市が調査
平成二十六年に泉区、二十七年に金沢区の障害者自立支援協議会が中心の方の通学、移動、日中活動に関する課題提起を横浜市の障害者自立支援協議会に行った。それを受け、横浜市は、中心の方の生活のしづらさ、課題を感じる場面、必要な取り組みなどについて全区の自立支援協議会にアンケート調査



第20回目となった今回も活発に意見交換がなされた

（平成二十八年）を実施。健康福祉局障害福祉課地域活動支援係長松浦氏は「分析した結果をふまえ、今後は事業所レベル、区域・市域レベルの取り組みを連動させ、課題解決を進めていきたい」と語る。

■通所先確保と多機能型拠点整備を

今後医療的ケアが必要な卒業生は毎年約二十名前後が見込まれる。一方、週五日受け入れ可能な社会資源には大きな地域偏在がある。特に北部方面は、今後卒業生が多く見込まれるが（表参照）、事業所での受け入れ可能な人数は少なく、この地域での安定的な進路確保は難しい状況だ。

また、多機能型拠点の整備は、毎年強い要望が多く寄せられる。横浜市中心グループ「ばざばネット」会長・下山氏は「土地確保の問題などもあるが、多機能型拠点は残り三方面（北東部、中央部、南

東部）の整備を計画しており進めてほしい」と要望。

さらに、委員からは「要医療的ケアの方の低年齢化」を指摘する声も上がる。先の横浜市の調査分析を踏まえて、今後を見通した拠点整備、地域資源の充実が望まれる。

■生活と医療の循環を

昨年開所した横浜医療福祉センター港南・入所（長期、短期）、外来診療、リハビリテーション、相談支援事業などを展開しており、入所利用者に対しては日中活動も提供し

ている。「生活の中にある医療」を目標に掲げる根津センター長は「地域のグループホームや在宅で暮らしている方が、医療が必要であればスムーズに利用でき、体調が安定したら再び地域で暮らせるよう、医療と地域の暮らしが循環できる仕組みづくりを進めたい」と語る。

日浦座長は最後に「重心の方にとって、医療の問題は大きい。地域の医療機関とも上手くつながって欲しい」と締めくくった。

平成28年8月調査

平成28年度 特別支援学校・養護学校肢体不自由課程 重度重複・要医療的ケア児童・生徒数【居住区別】

平成28年度 時点の学年	高1～高3		中1～中3		小1～小6		合計	
	重度重複	要医療的ケア	重度重複	要医療的ケア	重度重複	要医療的ケア	重度重複	要医療的ケア
東部 (鶴見、神奈川、西)	24	12	26	11	43	20	93	43
西部 (保土ヶ谷、旭、戸塚、泉、瀬谷)	54	19	41	20	79	39	174	78
南部 (中、南、港南、磯子、金沢、栄)	36	21	33	18	90	39	159	78
北部 (港北、緑、青葉、都筑)	36	15	48	27	92	37	176	79
合計	150	67	148	76	304	135	602	278

重度重複・重症心身障害児の認定を受けている者。身障1種1級または、2級と療育手帳A1、A2の両方の手帳を併せ持っている者。
療育手帳はないが、明らかに重度の知的障害があると思われるもの。
(意思疎通が難しいなど)
医療的ケア・・・医療職でなければ対応できない行為がある者。



障害者地域活動ホーム 金沢福祉センター

太田秀子さん

二階の作業室で太田さんがミシンで作業をしている傍らで、通所者の高野光子さんが刺し子で布巾に刺しゅうをしていた。「今度は、この端までまっすぐ縫ってね。」と一つの工程ごとに太田さんが声をかける。穏やかな声掛けで、ちよつと飽きてきた高野さんも最後までやりとげた。

太田さんの活動の

きっかけは、障害児に関わりがあった知人の「作業所でボランティアをしてみませんか」という声掛けだった。作業所はやがて、安定した活動場所が欲しいという運動を経て、現



太田秀子さん(右)といつも側で作業を一緒にする高野光子さん(左)

在地に「障害者地域活動ホーム」が完成。太田さんも引き続き「活動ホーム」で、活動を続けてきた。通算四十年近くになる。活動当初から週一日というのは、変わらない。「それが、永く続いたコツかしら」と太田さん。生活のリズムになっていくので、活動ホームの行事などでお休みになると、一週間が長く感じるそう。

長い活動の中では、「こちらが誠実に対応すると、ちゃんと応えてくれるという事を教えてもらいました。」と静かに微笑みながら話してくれた。

「急がれる社会資源・施策の整備」
 第五回自閉症懇談会を開催

自閉症者の進路や暮らしを家族、福祉、教育、行政関係者で考える自閉症懇談会（障害者支援センター主催・座長・谷口政隆氏・平成二十六年発足）が今年三月に開催された。

▲増加するニーズ

「進路対策研究会」調査によると自閉症スペクトラムの方は、七四名中（平成二十八年度特別支援学校等卒業生）約五割を占めている。また、「市内障害者福祉施設実態調査」（横浜市実施・平成二十四年度）によると、グループホーム、入所施設の待機者六五一名中、行動障害の方は半数以上を占めている。

▲財政的措置の必要性

支援の質の確保と同時に増加するニーズに対応するためには、社会資源の量の整備が急務である。環境整備、人的配置を可能とするため、さらなる財政的措置の必要性を多くの出席者が訴えた。

▲家庭への支援

一方、中野氏（家族）は、社会資源への支援の必要性和同時に「幼児、学齢期から家庭内で生活を組み立てる支援があれば、早い段階で本人や家族が抱える課題解決につながる」と家庭支援の重要性を語る。

▲支援の質の確保は？

宍倉氏（家族）は「今後、社会資源の支援の質は研修や発達障害者地域支援マネジャーの配置により一定程度の改善が期待されるのではないかと語る。元「やまびこの里」の中村氏は「行動障害の方に組み込むには組織全体の軸を確立し、様々な人が取り組めるよう支援、業務の標準

化が必要」と経験を踏まえた意見を述べた。また、平成二十六年から、主に自閉症の方の通所事業所を運営している「幹」の斉藤氏は、支援の質を第三者的に点検する計画相談体制の強化も訴える。

また、八島氏（家族）も「今、家族が家庭で

行っている支援を丁寧に分析し、外部の制度などで対応できるようにすれば、本人の暮らしはさらに多様なものとなるのではないかと今後を展望する。

「自閉症懇談会」参加者（敬称略、順不同）

谷口 政隆	（座長・神奈川県立保健福祉大学名誉教授）
中野 美奈子	（横浜市自閉症児・者親の会会長）
宍倉 孝	（横浜市自閉症児・者親の会）
八島 敏昭	（横浜市自閉症児・者親の会）
中村 公昭	（千代田区立障害者就労支援施設ジョブ・サポート・プラザちよだ 所長）
赤川 真	（NPO法人新 総括責任者）
斉藤 達之	（つるみ地域活動ホーム幹 施設長）
原田 淳	（花みずき 施設長）
土橋 勉	（南福祉ホームむつみ 事務長）
西尾 紀子	（横浜市発達障害者支援センター 発達障害者地域支援マネジャー）
小島 明	（横浜市立日野中央高等特別支援学校 特別支援教育コーディネーター）
中村 剛志	（横浜市健康福祉局障害企画課企画調整係 担当係長）

オリジナルコミュニケーションボードを作ってみよう！

ホームページから簡単な手順で必要なイラストを選び印刷するだけ。オリジナルボードは印刷のサイズを選び、カードも最大十二枚まで組み合わせる事ができます。

今回は熱中症の予防に役立つオリジナルボードを作成してみました。「出かけるときのおやくそく」として『帽子を被って』外出しよう、外出中に暑いと感じたら『水分補給』をして、と分かりやすく伝えることができます。このような使い方はいかがですか。

二百種類以上あるカードを組み合わせて、様々なボードを作れます。分かりやすいイラストを使って暮らしの中の様々なシーンで皆さんで考えていただく、是非ご活用ください。

今回は熱中症の予防に役立つオリジナルボードを作成してみました。「出かけるときのおやくそく」として『帽子を被って』外出しよう、外出中に暑いと感じたら『水分補給』をして、と分かりやすく伝えることができます。このような使い方はいかがですか。

出かけるときのおやくそく



オリジナルコミュニケーションボードとは…

イラストを組み合わせるオリジナルのボードを作成できるシステム。イラストをダウンロードすることも可能。
 ●問い合わせ：セイフティネットプロジェクト横浜事務局（横浜市社会福祉協議会障害者支援センター）
 ☎ 045-681-1211 ☎ 045-680-1550
 ※詳しくは『セイフティネットプロジェクト横浜』で検索！

障害者後見的支援制度 〜将来を考えるための様々な取り組み〜

障害者後見的支援制度

度開始から六年半。この三月、全区で支援室が開設された。各支援室は、この制度の目的の一つである「本人の将来をともに考える」ために本人や家族とじっくり向きあっている。さらに多くの方に

制度を理解いただけるよう、様々な工夫をしている。今回は、最近開催された支援室主催の勉強会や、講座について紹介する。

将来を考えるきっかけ

お金の勉強も

〜鶴見区・障がい者

後見的支援室

りんくるつるみ

鶴見区の「りんくるつるみ」、障害者本人が自分の将来を考えるきっかけづくりを積極的にやってきた。

その中の一つが「お金と上手につきあおう！」という本人向け

勉強会。これは「将来の暮らしをイメージできるよう、お金の勉強も必要！」という訓練

会のお母さんからの要望がきっかけ。講師は担当職員やサポーターが担い、今まで数回開催してきた。

勉強会では、お金の計算の仕方、暮らしに必要なお金など、イラストも使って具体的に

お話している。参加したご本人からは「勉強になった。これから将来のことを考えてい

かないといけないと思った」という感想も



和やかな雰囲気勉強会

ライフプラン講座の活用 〜泉区障がい者後見的支援室しーど〜

「しーど」に、近隣の

特別支援学校から研修会講師の依頼があった。テーマは「後見的支援制度や卒業後の生活」。

公開講座のため、参加者（六十四人）は、特別支援学校の保護者や教員をはじめ、地域の小中学校・個別級の保護者、地域住民と幅広い。

多くの方にこの制度を理解していただくために、まずは障害のある人の暮らしをイメージいただくこと、使用した研修は「ライフプラン講座（※参照）」。

障害のある人の卒業後の日中活動や暮らしについても丁寧にお話しました。

当日は、保護者の方から「グループホームの入居について」、地域住民の方から「障害のある人とかわる際

の配慮について」など、多くの質問が寄せられた。参加者それぞれの視点で、興味を持ってもらえた講座となった。

二つの支援室の実践は、将来の暮らしについて本人や家族が具体的なイメージを持つてもらったための取り組みのひとつ。

制度の理解を広げるために、そして、本人が将来を考えていくきっかけをつくるために各区支援室の取り組みが広がっていく。

※ライフプラン講座

障害のある人や家族がこれからの活動や暮らしをイメージしたり、検討する時の参考にしていただくための講座。内容は日中活動、健康、余暇など暮らしに関連する制度等をパワーポイントでわかりやすく紹介。障害者支援センター作成。ご要望のところへ出前講座もしています。

連絡先：障害者支援センター
☎〇四五・六八一・二二一



ホップステップ ゆとり
(中区)
渡辺 梓さん

ホップステップゆとりに通う渡辺梓さん。

手先の器用さを活かして作業ではフェルトやビーズの製品作りなどを担当し、自宅では編み物なども楽しむ。そんな渡辺さんが長く取り組んでいるのが手話の勉強だ。

勉強を始めたのは平成五年頃。NHK「みんなの手話」をTVで見たり、中区社協の手話サークル「やなぎの会」に毎週参加、その他にも手話ダンスサークルに参加するなど、

多くの仲間と一緒に意欲的に取り組んでいる。最近では、これまでの経験を活かし、区社協で開催された手話講

座に教える側として参加。「教えるのは楽しい。やなぎの会の人や周りの人が自分の背中を押してくれている」と話す。手話ダンスでは区内の施設や団体が活動などを披露する「ほれほれ祭り」やケアプラザのデイサービスでの実演など、様々な場面で活躍している。



取材に伺った際は、手話技能検定の受験に向けて準備の真っ最中。教本を手に「頑張ります。」と語って下さった。（後日、七級合格との嬉しいご報告を伺うことが出来ました。）

自分の好きなことや趣味を見つけよう、DVDや折り紙などさまざまな楽しいことをしてみよう、と笑顔で答える渡辺さん。

あゆみ荘 だより

「防災研修会」開催

東日本大震災発生から六年となった平成二十九年三月十一日、横浜あゆみ荘では、横浜市消防局OBを講師に迎え、日々の防災意識を高めることを目的に、研修会『防災研修会・災害に備えよう！非常食を食べてみよう！』をグループホームの入居者と職員を対象に開催しました。



熱心な参加者の皆さん

実践を通して習得しました。

有事の備えや避難訓練について、疑問点を講師から丁寧に教えていただき、大変有意義な研修となりました。

外壁および屋根の大規模修繕のお知らせ

横浜あゆみ荘では、平成二十九年九月から平成三十年三月まで外壁および屋根の修繕を行う予定です。

工事は日曜日を除く日中を予定しており、その時間帯は工事に伴う騒音が発生することも予想されます。また、建物全体を囲うように足場が組まれ、覆いが

かけられることから、室内からの眺望が制限されることとなります。

日頃からあゆみ荘をご利用いただいているお客様におきましては大変ご迷惑をお掛けいたしますが、安全には十分に配慮し、工事を進めてまいりますので、ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

「くずがやゆめひろば」開催

三月二十六日(日)、「くずがやゆめひろば」が開催されました。

「くずがやゆめひろば」は、地区社協などで構成する実行委員会と、葛が谷地域ケアプラザ、都筑区社会福祉協議会、都筑地区センター、横浜あゆみ荘の共催で、地域と障害児世帯をつなぐことを目的に、障害児の余暇支援活動や家族勉強会などを実施しています。



いちごでケーキ作り！

当日は雨模様の中、参加児童はボランティアとペアを組んでいちご狩りをした後、採れたのいちごでケーキを作って楽しみました。



情報共有のための勉強会

同日日に開催した勉強会では、「高校卒業後の進路」主に就労について」をテーマに、有意義な情報交換会が行われました。

お問合せは、横浜あゆみ荘まで。
☎(941) 8383

よこはま障害者共同受注総合センター通信

開所から三年目となる、受注センター「わーくる」では、この度ホームページをリニューアル、トップページのデザイン変更のほか、新たに「わーくる商店街」をオープンしました。

製品情報

「わーくる商店街」は、受注センター「わーくる」の登録事業所で製作された自主製品の紹介ページ。「雑貨」「革・木製品」「布・紙製品」「アクセサリ」「絵画・書」「焼菓子」「その他食品」の七つの店舗(カテゴリー)が、特色ある製品を掲載しています。

雑貨ページではマグネットや碗皿、コースターなどの日用品を掲載、かわいいネットレスやプレスレットもアクセサリーの店舗で紹介していま



【問合せ先】
よこはま障害者共同受注総合センター
電話 045-306-9910
わーくるホームページ:
<http://www.yokohama-juchuu.jp>
「受注センターわーくる」で検索

す。焼菓子店では、春から初夏をイメージできる、花の形のサブレやさくらケーキなど明るい製品が並んでいます。
ご注文は
商品の購入は、製品詳細ページから直接販売事業所に注文できます。今後とも季節に合わせた商品を順次掲載予定。是非、ご来店のうえ、ご購入をお願いいたします。